

伊勢の今を伝える

ISEBITO NEWS

新春号 第2号

いせびとニュース

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげまいりブランド戦略委員会
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL (0596) 23・5166 FAX (0596) 23・5241
E-mail otayori@isebito.com

2

新春
神さまの宴に
東遊

あずまあそび

うたげ

年に一度、伊勢神宮の
すべての神様がつどう新年宴会
「一月十一日御饗」。
海山の幸や御酒を
お召しのあとは
舞楽「東遊」でおくつろぎ。



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

『一月十一日御饗』より「東遊」 撮影／阪本博文

百二十五社の神々が一堂に

初詣の人並みがやや落ち着きを
みせる一月十一日、伊勢神宮では
「一月十一日御饗」の神事が行わ
れる。内宮の天照大神、外宮の豊
受大神をはじめ、伊勢神宮百二十
五社すべてのご祭神が一堂につど
い、神職も全員参列する年に一度
の「神様の新年会」である。

お供えする御饗は、正月らしい
豪華さだ。伊勢えびや鯛、芹や蜜
柑など、海の幸、山の幸の数々。
それに、餅、飯、御塩、御酒。

御饗の神事が終わると、舞楽で
くつろがれる第二部が始まる。五
丈殿を会場に楽師たちにより奏さ
れる。演目は恒例の「東遊」。六
名の舞人が長い裾のすそさばきも
軽やかに、笛・箏・和琴の調べ
にあわせて輪舞する。駿河の国の
海辺に舞う天女の姿を模して振付
けられたという、平安時代から伝
わる舞である。

舞人の装束は、桐竹の立ち木、
雉、根笹が青摺りという古来の染
色法で描かれた袍、それに太刀を
つける。初春にふさわしい清々し
い武官の舞である。途中、肩お
ろし（片袖を脱ぐ）で瞬時に雰囲気
のかわるシーンがみごとだ。

舞楽の会場となる五丈殿は、神
楽殿のすぐ東隣。参道からも舞を
見ることが出来る。演奏は約十五
分間。折りよくお相伴にあずかれ
ば、新春のよい記念となるだろう。

一月十一日御饗の神事舞 演目「東遊」
日時 1月11日（火）13時より
会場 内宮・五丈殿

●主な内容

2・3面 特集1 遷宮への道（その2）

風日祈宮橋 完成！

御装束神宝・刺繍

4・5面

特集2 伊勢のしめ縄

6・7面

「おかげの国」へようこそ！

その1 外宮めぐり

その2 滝原めぐり

8面

いせびと歳時記

特集1

遷宮への道

風日祈宮橋の架け替え、完了。 渡始、にぎにぎしく――

内宮の島路川に架かる風日祈宮の橋が渡始の日を迎えた。これで、宮域の橋すべてが架け替えを完了。また一步、ご遷宮が近くなる。

秋晴れの渡り初め

今秋、風日祈宮橋が完成した。五十鈴川の支流・島路川にかかる橋で、宇治橋に次ぐ宮域で二番目に大きい美しい和橋だ。

風宮橋とも呼ばれるこの橋は、その名の通り、別宮・風日祈宮への参道に架かる。表参道から少し離れているだけに、辺りは静寂につつまれ、初夏にはカジカガエルがころころと美声を聞かせ、宵闇にホタルが飛びかい、秋には紅葉が川面に映える。宮域の中で最も風情のある一帯といえよう。

渡始の日は、秋晴れの九月十七日。大宮司をはじめとする神職、神社本庁統理をはじめ全国の神社庁の代表、地元の神宮奉仕会員、それに旧神領民六十四奉曳団の代表たちが各団の法被姿で参加し、さらに一般参拝者もその列につづいて、盛大な渡り初めとなった。

お天気の神様に見守られ

風宮橋の架け替え工事は今年二月に始まり、約八カ月をかけて完了した。施工は、宇治橋と同じく矢野竜也所長(49)ひきいる風日祈宮橋修造(株)間組事務所。遷宮造



葺き上がったばかりの神殿。(平成5年撮影)



五十鈴川に合流する島路川にかかる風日祈宮橋。橋の上部はヒノキ材、橋脚には強度の高いケヤキ材を使用。長さ43.2m、幅4.6m、擬宝珠8基、橋脚3本立て5組(15本)、木除杭3本。



高欄落とし込み。(写真・中)を指揮した間組の宮脇章治さん。



橋の敷板の加工には、船底を張るのと同じ船大工による伝統技法が用いられた。

宮は三度目の石神敬祐さん(70)を棟梁に、宇治橋工事で初めて加わった三名の若手を含む宮大工八名で取り組んだ。

まず、仮橋の架設、つづいて旧橋の解体だ。風宮橋はうっそうと繁る大樹のかけにあり、二十年の歳月に橋板や欄干には痛々しいほど腐食がみられた。

宮脇章治さん(34)だ。若手ながら二十年後の遷宮をみすえて、経験を積み、記録にも力を入れた。

この銘にある「観阿弥」を初代とする風宮家の二十代目・風宮貞子さんの手記によると、初代から十代まで、一家は風宮橋の橋詰に住んでいたという。後に大火でおはらい町に移住したが、代々風宮橋の建立・維持につくした家だった。明治になって神宮の諸制度が改まり、以降、橋と風宮家とのかわりもなく、家伝の古文書を神宮文庫に寄贈した、と手記は

擬宝珠が由緒を語る

風宮橋の起源については、奈良から平安時代にかけて黒木橋(皮のついたままの木橋)などの記録がわずかにあるだけで、常に橋が架かっていたかどうかは不明だ。

宇治橋と四架の火除橋に加え、この風日祈宮橋の竣工で、宮域の橋はことごとく新しく架け替えられたことになる。

現在の橋には、八基の擬宝珠がある。その南端の欄干にある擬宝珠に「太神宮風宮 五十鈴川御橋 明応七年戊午 本願観阿弥 敬白」の銘がかすかに読み取れる。西暦の一四九八年に、観阿弥という勧進聖(註)の本願達成によつ

(註)勧進聖(かんじんひじり) 杜寺 仏像 橋などを建立するために諸国をめぐり、金品を募る僧。



風日祈宮は、農業に関わり深いお天気の神様。年二回(5月・8月)の風日祈祭では、風雨の災害なく五穀が豊作であるように、と祈念される。5月には、伊勢神宮の125社すべての宮に御幣と御養、御笠をお供える。



伊勢
名物

あふく

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) フリーダイヤル 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>

おんしょうぞくしんぼう
御装束神宝

とは――

遷宮のために新しく建てられた神殿の内部を飾り、供える品々のこと。その数は714種1576点。当代一流の匠によって、伝統工芸のさまざまな技法を結集して調製される。



神宮徴古館



「緑色唐組平緒」に刺繍をほどこす小松二三三さん。神宮から渡された全体図と配色図を手元に置いて、一針に渾身の力を集中させる。

唐組平緒
の刺繍

達人の手になる平緒に熟練の刺繍師がひと針、ひと針、紋様を刺し止め、神の御料が完成に近づく。

当代一流と見込まれた匠が
精魂こめる御装束神宝

当代随一の匠はいずかに

悠久の歴史のなかで二十年の歳月は長いとはいえない。しかし、命に限りある人間にとって、式年遷宮の二十年は時として長すぎる。その数、七・一四種一五七六点の多岐にわたる御装束神宝。それを発注する立場にある采野武朗技師（神宮式年遷宮造営庁）の悩みもそこにある。

当代一流の匠はいずかに……、そんな思いで、日本伝統工芸展など、これぞと思う展覧会へ足繁く通う。人脈をたよりに工房へ足を運び、仕事ぶりを拝見。さらには、仕事に対する考え方を聞かせてもらう。

式年遷宮記念せんぐう館

勾玉池のほとりに――
着々と建設中

次のご遷宮を期して、外宮・勾玉池のほとりに「せんぐう館」の建設がすすんでいる。めざすのは、式年遷宮の意義を正しくわかりやすく伝え、遷宮の継承をはかること。

外宮正殿の一部を再現するなど、木の文化、古代からの造営の技、美術工芸の伝統美などが体感できる展示や実演展示となる。

また、伊勢参宮の手始めとして、まず、外宮に立ち寄り、神宮および遷宮について理解を深め、さまざまな情報も得られる場所となる。

勾玉池一帯は緑も多く、伊勢市民の憩いの場でもあったところ。その池を見ながら、200人くらいがくつろげる休憩舎、月見の宴などを催す水上奉納舞台なども計画されている。

開館予定 平成24年4月

「製作をご依頼するに当たり、技量は絶対条件ですが、それだけではお任せできないのです」。作家としての名譽、あるいは儲けを優先するのであれば、頼めない仕事だという。

今回、刺繍を担当するのは、宝暦二年（一七五二）創業の十代つづく「西刺繍」の職人で、最たる熟練者の小松二三三さん（59）である。刺し止める文様は、孔雀、鸚鵡、草花の三種類。静かな部屋にただひとり、刺し台にしっかりと固定した平緒にむかって端座し、ひと針

時を越えて伝承され洗練された日本の刺繍も、人々の和装離れによって技術の保持・伝承が危ぶまれている。神様の御装束神宝の製作は、日本刺繍の分野においても正しい技術伝承のために二十年に一度迎える試練といえよう。

遷宮の御料で唯一刺繍をほどこすものに、唐組平緒がある。東京に住む組物師・古澤康史さんにより組み上げられた平緒（前号で紹介）は、京都へと運ばれた。ここで刺繍師の手により文様が刺繍でほどこされる。

つややかな刺繍糸は、高知産の最高級生糸を植物染料で十三色に染め分けたもの。手にする針の種類は、最細の極細から最太のかがり針まで十数種。縫いの技法は、縫い切り、まつり縫、刺し縫など、主なものだけで十二種の日本刺繍の技法が駆使される。

最終的には、神の御料をつくるという熱意で乗り越えてもらわねばならない、という。御装束神宝は、重い仕事です。

これまで長年、着物、帯、屏風の類など、さまざまな伝統工芸品を手掛けてきた小松さんにとって初めての手強さであったようだ。一つの文様を仕上げるのに二週間から二十日はかかるという。長尺の平緒では、一条にこれを十五文入れることになる。



植物染料で手染めされた刺繍糸。

ひと針、丹念に刺繍針を刺す。達人の手になる固くしまった組物の地に針を立てるのは、熟練の師にして容易なことではない。「想像を上回る固さでした。最初はまっすぐ針が入らず、何本も曲げてしまいました」

東京大神宮 御鎮座130年

明治13年（1880）、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遙拝所として建てられたのが「東京皇大神宮遙拝殿」、いまの東京大神宮です。

皇室の御祖神である天照大神をまつり、国民の総氏神として仰がれる伊勢神宮（内宮）の御神徳を、皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころになるようにとの願いから創建されて今年で130年。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。

東京のお伊勢さま



東京大神宮



特集 2

伊勢志摩のしめ縄

お正月のシンボル「しめ縄」。ところが――、伊勢志摩を歩くと年中「しめ縄」が飾られている。無病息災を約束する、そのいわれとは――。

伝説の生きるしめ縄

しめ縄の始まりは

しめ縄のルーツは「天の岩戸神話」とされる。天の岩戸から出てこられた天照大神が再び引きこもることがないようにと、岩戸の入り口に張りめぐらせた縄がその起源だそう。

お正月には、家の門、玄関、出入り口などにしめ縄を飾り、歳神を迎えるのが日本の習わし。松の内を過ぎると外されるのが一般的



神前海岸の先端にある潜島。

だが、ここ伊勢志摩地方では一年中しめ縄を飾る風習がある。しめ縄には「蘇民将来子孫家門」と書かれたお札がぶら下がっている。これは二見町に古くから伝わる須佐之男命の伝説に由来する。

残した。以来、蘇民家は疫病が流行しても免れ、代々栄えたという。その故事にあやかり、この地方では、「蘇民将来子孫家門」の守り札をしめ縄につけて一年中門口に飾り、無病息災を願う。

松下社の桃符頒布始祭

伊勢市二見町にある松下社では「蘇民将来子孫家門」の木札を「桃符」と呼び、授与を行う。桃符の裏面には、「急々如律令」とドーマン、セーマンの印が入る。



この印が入るのは松下社のみ。

縄を張り、聖域を示す

しめ縄のある風景



絆としてのしめ縄 二見浦の夫婦岩 (伊勢市・二見興玉神社)

仲睦まじく大小二つの岩が並んだ夫婦岩は、夫婦円満の象徴として、この地域を代表する風景だ。岩を結ぶのは、五本の大注連縄。その張り替えが、五月、九月、十二月の年三回行われている。大勢の参拝者が見守り、二見太鼓や木遣りの響き渡る中、長さ三十五



手送りにしめ縄は大きい男岩へと。

四時間をかけて五本が完成した。大注連縄は地元の人々の熟練のコツと技、細やかな手作業により受け継がれている。

神前海岸の潜島

氏子たちが手づくり
この大注連縄は、氏子たちによって奉納されている。張り替えにあわせて年三回、二見町江地区、茶屋地区の住民が集まり、「しめ打ち」と呼ぶ奉製作業を行う。束ねたわらを叩いて柔らかくし、水をかけてなじませる。そして「ぞ



びったりと息のあったしめ打ち。

1えつ、ぞ1えつ」の掛け声のもと、ウインチを回し「や」といと呼ぶ道具を使い、仲人が三方のやりがかった束を一本にする。ヒゲをはさみで切り、足をつけ、約

潮が引くと姿を現す。神前岬の先端に潜島がある。島といえども陸続きで、波の侵食により形成された洞窟、いわゆる洞門である。ここに辿り着けるのは大潮の干潮時のみ。旧暦六月一日に近い日曜日のみ。旧暦六月一日に近い日曜日

へ集まり、しめ縄を作り、潜島にかける「神前普請」が行われている。荒々しくも神秘的な海辺で、しめ縄を張り、地区の安全を願う。



参宮客をもてなす
お食事
はうらいてい
名物ステーキ牛丼をどうぞ



<http://www.nikodo.co.jp/>



外宮さんと内宮さん、二つのお宮が
永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より
「二光堂」と名づけました。

神宮会館

(財)伊勢神宮崇敬会

内宮に一番近い宿・歩いて5分
どなたでもご利用いただけます



〒516-0025 伊勢市宇治中乙之切町152
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>



早朝参拝の
ご案内をしております。

伊勢内宮前
二重県伊勢市内宮おはらい町
TEL 0596-22-4175
FAX 0596-22-425105

伊勢のしめ縄いろいろ



1年を通じて飾られ、一家の無病息災を守る伊勢のしめ縄。

伊勢のまちを歩くと、いろいろなしめ縄が見つけれられる。護符に書かれる神様の名前、飾り物の種類、縄の編み方などにそれぞれ特徴があり、その土地や各家の由来と深い関わりがある。



紙垂のみは神宮と縁深い印。伊勢市河崎の商家にかかる。

しめ縄祭り・しめ縄市

〈しめ縄の祭〉

「しめ切り」波切漁港

(志摩市大王町波切) 12月31日(金)

漁港の町・波切の「正月迎え」の祭。大晦日の夜から元旦早朝にかけて、家々をほめて回る「名のり」、長さ五尺ほどの大しめ縄を切って山の神を迎え入れる「しめ切り」、豊漁を祈る「火祭り」を行う。

「しめ切り神事」安乗神社

(志摩市阿児町安乗) 1月10日(月)

安乗で行われる正月行事の一つ。大蛇に見たてた、長さ五尺、直径二十五センチのしめ縄に刀を振りおろし、両断されるまでの回数で一年の吉凶を占う。



しめ切り(波切漁港)

しめ切り神事(安乗神社)

〈しめ縄が買えるところ〉

みの なかつばら

箕曲中松原神社前のしめ縄市

年末(25日頃から31日まで)に恒例の「しめ縄市」を開催。度会町や玉城町の「しめ縄商組合」によるもので、他にも伊勢市内の神社前で開かれ、年末の風物詩となっている。

宮忠

サイズや形もさまざまな種類のしめ縄を扱う。おかげ横丁にも店舗あり。インターネットでも購入可。
<http://www.ise-miyachu.co.jp>

〒伊勢市岡本1-2-38(本店) ☎0596・28・0412

民話の駅・蘇民

鳥羽への国道沿い、「蘇民将来」の伝説が残る松下社でお祓いをうけたしめ縄を販売。



おかげ横丁のしめ縄づくり体験。

〒伊勢市二見町松下1335

☎0596・44・1000

おかげ横丁・歳の市

12/18(土)~28(火)

毎年、正月準備の市が立つ。しめ縄を販売するほか、18・19・25・26日には「しめ縄作り教室」も開かれる。

〒伊勢市宇治中之切町52

☎0596・23・8838



角谷泰さん(左)と吉崇さん。護符(木札)は、すべて泰さんの手書きによる。工房は清々しい青わらの香でいっぱい。

伊勢市神久に四百年以上続く「二軒茶屋餅角屋本店」では、年末に当主自らがしめ縄を手作りする伝統がある。代々受け継がれる現場にうかがった。

「年の瀬の夜、店じまいをしてからの恒例行事ですね」と二十一代目当主の鈴木成宗さん(43)。作るしめ縄は大小合わせて十個。自宅、店の門の他に、樹齢数百年の大楠や神棚、帳場、金庫にも飾る。

一家のあるじが手づくりするのが慣例で、現当主も作り方はすべて父親の宗一郎(80)さんから教わったという。「最近では、子どもも手伝ってくれるので、家族が寄って、会話をしながらの作業は楽しいです。素朴さが感じられる。」

伊勢市神久に四百年以上続く「二軒茶屋餅角屋本店」では、年末に当主自らがしめ縄を手作りする伝統がある。代々受け継がれる現場にうかがった。

老舗商家に代々伝わる正月準備

いですよ」とコミュニケーションの場ともなっているようだ。

材料のわらはは作り始める半日前に水を打ち、陰干しして柔らかくしたもの。飾り物は、庭や近郊の野山から調達する。制作時間は、大人二人がかりで、一個作るのに約二時間前後。最後に当主自らが筆書きした護符(木札)を付けたら出来上がりだ。完成したしめ縄は、縄が太く大きく、手作りならではの素朴さが感じられる。

玉城町のしめ縄作り

職人の技と心で紬つたしめ縄

伊勢市の西郊にある玉城町は、のどかな田園風景が広がる農業地帯。なかでも岩出、中角地区は、古くから農閑期を利用したしめ縄づくりが盛んで、県下でも有数の産地となっている。

中角地区にある「角谷産業」で、年々およそ二万五千個のしめ縄を生産している。「私たちのしめ縄作りは、稲を育てるところから始まるんですよ」と代表の角谷泰さん(66)。春から夏にかけて長さや固さに特長のある七品種を栽培し、稲穂がつく前の青々とした時に稲を刈るなど、素材となる稲作りから手間ひまかけている。

九月の彼岸を過ぎると収穫した稲を束ね、本格的なしめ縄づくりが始まる。まずは、縄を編み上げていく。できたものは、湿度がきっちり管理された部屋で保管し、出荷前に「飾り物」をつけたら出来上がりだ。生産のピークは十二月初旬。十二月七日頃、出荷前に氏神の宮司によりお祓いを受けて全国各地へ出荷される。



伊勢志摩近郊で手づくりされるしめ縄の情報いろいろ



縄を縛う成宗さん(左)と宗一郎さん。しめ縄につく木札には、交通の安全をつかさどる神様、旅行の神様の名前が並び、由緒は不明だというが、船参宮客を迎え入れてきたご当家の歴史を反映しているようだ。

うの花どーなつ
豆乳とおからを
練り込んだ
ヘルシードーナツです。

「和妙」を
50%以上含んだ、どらみ
ソフトクリームです。

「和妙」にどらみ
水の良さを最大限
ひきたせるよう
作りあげた豆腐です。

伊勢おはらい町
豆腐庵山中

伊勢市宇治中之切町95番地
電話 0596・23・5558

美し国ウォーキング

◆お伊勢参りと鳥羽三山(ツデーウォーク)
2月12日(土)13日(日)要予約 宿泊費交通費は自己負担
鳥羽三山(日和山・極ノ山・城山)に登り
鳥羽湾の美しい眺めを楽しむ。

◆寝屋子の島・答志島でのんびり散策
2月20日(日)交通費は自己負担
昔ながらの「寝屋子」の風情が残る
鳥羽の離島・答志島をめぐる。

◆浦村かきで元氣百倍 櫛ヶ峰越え
3月5日(土)交通費は自己負担
牡蠣の名産地・浦村湾周辺を歩き、
ミネラル豊富な浦村かきを味わう。

お伊勢さんのあとは
鳥羽で湯つたりと
ゆるく

お泊まりは鳥羽へ

旬の恵みと海の幸と
温泉でのんびり

鳥羽市観光協会 鳥羽市大明東町1-7 電話 0599-25-3019 <http://www.toba.gr.jp/>

「おかげの国」をめぐる

12回シリーズ

おかげの国へ

ようこそ！



伊勢・鳥羽・志摩——「おかげの国」。
川辺に、岬に、みどりの森に、
お伊勢さん百二十五社がたたずむ処。
照る日も降る日も、おかげ参りの旅びとを迎えてきた町。
今回は、初詣の人々でにぎわう外宮と
滝原宮周辺をご紹介します。

おかげの国とは
神宮の百二十五社が点在する伊勢志摩エリアを、おかげを感じ、土地として「おかげの国」と呼ぶ。官民の組織「おかげまいりプラン」で戦略委員会が、おかげ参りのような旅の提案に取り組んでいる。0596・21・5565（事務局 伊勢市役所観光企画課内）

三 お楽しみもたくさん 食の神様のお膝元をめぐる 外宮めぐり

約6.4キロ
スタート&ゴール
JR参宮線伊勢市駅

お伊勢参りは、外宮から内宮へお参りするのが昔からの慣わし。今回は、食の神様、外宮宮域と周辺の摂社・末社をめぐるコースだ。まずは表参道から正宮をめぐる。素木が美しい火除橋は平成二十二年に架け替えられたばかり。第一鳥居・第二鳥居をくぐり、鈴



毎月、1日、11日、21日の朝は、神馬が正宮に奉参(けんざん)する。

戻り道、表参道と北御門参道の分岐に大庭がある。四至神はその一段高い石畳の上に神の木が一本という簡素な姿でまつられていて、向かいの神楽殿で新年の神札を選び、北御門参道へ足を進めよう。

ほとんど左手に忌火屋敷、その奥に御酒殿神がある。忌火屋敷は神様の食事を作る台所。御酒殿では毎日朝夕、欠かすことなく天照大神をはじめとする神々へ御饌(神様の食事)をお供えする外宮特有の神事が行われている。

すぐ近くの御厩(みくら)の先で左に折れ、大樹の繁る参道へと入ろう。少し歩けば度会国御神社、さらに五十



大樹の繁る参道。



外宮の別宮・月夜見宮。

1 豊受大神宮とよけだいじんぐう 御正宮 祭神は豊受大神。食物をはじめ諸産業の守り神。内宮の鎮座より約五百年後に天照大神の食物(大御饌)の守護神として丹波の国から迎えられたといわれる。

2 多賀宮たかのみや 〔外宮別宮〕 外宮第一位の別宮で豊受大神の荒御魂がまつられている。

3 土宮つちのみや 〔外宮別宮〕 祭神の土御祖神(おつちのみやのかみ)は外宮の地主神。

4 風宮かぜのみや 〔外宮別宮〕 祭神は、級長津彦命・級長戸辺命。鎌倉時代の元寇のときに神風を起こして国難を救ったとして、末社から別宮に昇格した。

5 下御井神社 しものみのいんじや 〔外宮所管社〕 神々に供える水を組む井戸で、上御井神社(後述)の予備とされている。祭神は下御井鎮守神。

6 四至神よっしのかみ 〔外宮所管社〕 外宮の境界を守る神様。御酒殿の神をまつる。

7 御酒殿神みさかどののかみ 〔外宮所管社〕 御酒殿の神をまつる。

8 度会国御神社 わたぐにのみじんじや 〔外宮摂社〕 祭神は彦国見賀岐建良束命(ひこくにみがたけよつかのみこと)。地元のみがきたけよつかのみこと。地元の度会の国の守護神をまつる。

9 大津神社おおつじんじや 〔外宮末社〕 祭神は葦原神。もとは五十鈴川の河口にある神社港の港口の守護神としてまつられていた。

10 上御井神社 かのみのいんじや 〔外宮所管社〕 毎朝早く神様に供える水を汲む神聖な井戸。外宮の御料水の守護神・上御井鎮守神をまつる。

11 度会大國玉比賣神社 わたぐにのおおくにひめじんじや 〔外宮摂社〕 祭神は度会大國玉比賣命(わたぐにのおおくにひめのみこと)。地元の度会の国の守護神をまつる。

12 伊我理神社 いがりじんじや 〔外宮末社〕 祭神は伊我利比女命(いがりひめのみこと)。名の由来は、猪狩で五穀を食い荒らす猪を狩り立てる女神から。井中神社が同座している。

13 山末神社 やますえじんじや 〔外宮摂社〕 祭神は山末姫命。外宮神田の山の神で田を潤す泉の神といわれる。

14 田上大水神社 たのえおみずじんじや 〔外宮摂社〕 祭神・小率神主は外宮の世襲神主だった度会氏の祖。



大桶のふもとに建つ伊我理神社。

おかげの国めぐりの必携本!
「おかげの国」めぐりには、『お伊勢さん125社めぐり』の携帯をおすすめします。歩いてめぐるのが便利なMAPや、周辺の休憩処・土産物、伊勢神宮の知識など、旅に役立つ情報も盛りだくさん。
●三重県内の主要書店、一部スーパー・観光施設ほかで好評発売中! 定価1260円
伊勢文化舎 0596・23・5166

お伊勢さん 125社とは

正宮(しょうぐう) 2社
天照大神をまつる皇大神宮(内宮)と、豊受大神をまつる豊受大神宮(外宮)。

別宮(べつぐう) 14社
正宮の「わけみや」の意味をもち、正宮と関わりの深い神をまつる格の高いお宮。式年遷宮も正宮に続いて行われる。皇大神宮に10宮、豊受大神宮に4宮の別宮がある。

摂社(せつしゃ) 43社
927年の『延喜式神名帳』に所載されている神社。皇大神宮に27社、豊受大神宮に16社の摂社がある。

末社(まつしゃ) 24社
804年の『延暦儀式帳』に記載されている神社。皇大神宮に16社、豊受大神宮に8社の末社がある。

所管社(しょかんしゃ) 42社
正宮や別宮に関わり、水や酒、米、塩、麻、絹など衣食住をつかさどる神々が多くまつられ、皇大神宮に30社、豊受大神宮に4社、別宮の瀧原宮に3社、伊雑宮に5社の所管社がある。

◆本社 伊勢市上地町2691-13
電話0596・23・1281(代)
0120-00-0707
◆本店(外宮前) 伊勢市本町19-19
電話0596・23・3141(代)
◆参宮楽膳 伊勢市上地町2691-51
伊勢問屋センター前
電話0596・20・3958(代)
◆内宮前店 伊勢市宇治中之町87
電話0596・28・0081
E-mail info@sekiya.com
http://www.sekiya.com



http://www.iwatoya.co.jp

おかげさまで
創業百周年——
お多福とともに岩戸屋は
今も昔も内宮前

伊勢・内宮前おはらい町
岩戸屋
TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE
珠庵
TEL 0596-23-6750

伊勢の土産&ギャラリー
百福
TEL 0596-23-3236

名物岩戸餅



瀧原宮（右）には天照大神の和御魂、竝宮には荒御魂をまつるとされる。



清流・宮川を眺め、旧街道をたどりながら三瀬坂峠を越えて瀧原宮をめざす瀧原めぐり。奥伊勢の自然と人々の営みが織りなす、変化に富んだ景色が楽しめるコースだ。ここは、倭姫命が天照大神のお告げにより定めた、大神の鎮座地と伝わる。

三瀬谷駅からまもなく、宮川に架かる旧舟木橋に出る。趣のある橋の橋脚はレンガ造りで、国の登録有形文化財に指定されている。橋を渡って左に曲がり、宮川に沿って二キロほど歩くと、案内板があり、狭い道を下る。「まなごさん」と親しまれる、地元の信仰のあつた多岐原神社だ。生い茂る木立の中に立つと、川のせせらぎが聞こえる。宮川に臨む断崖の上にあり、かつて対岸との間には「三瀬の渡し」があった。ここから三瀬坂峠を越えて瀧原宮へ出る道が熊野古道の伊勢路である。その昔、西国

という美しい土地に案内され、草木を刈り払ってこの地に新宮を建てたのが起源といわれる。瀧原宮から順番にお参りし、すべての参拝をすませる頃には、心おだやかになっている。

この宮は、二十一年に一度の遷宮祭はもとより、初詣をはじめ、七五三など、日頃から地元で深く敬われている神社だ。

瀧原駅への旧街道沿いには街村特有の家並みが続く。往時をしのびながらゴールをめざそう。



土地の神・まなごさん。



三瀬坂峠の宝暦地蔵。

1 多岐原神社 天照大神の御魂をまつる。内宮別宮。倭姫命が宮川の急流の瀬に渡りあぐねていたところをお助けした土地の神、真奈胡神が祭神。瀧原宮から約6キロのところに鎮座する。

6 川島神社 かわしまじんじゃ。瀧原宮所管神社。祭神は瀧原宮の御魂の神である長由介神。長生きの神であるとの民間信仰があった。川島神を祭神とする川島神社が同座している。

2 瀧原宮 瀧原の地に緑のある水の神といわれる。御神体を入れる御船

3 瀧原宮 瀧原の地に緑のある水の神といわれる。御神体を入れる御船



川原で手を清める。

四

瀧原めぐり

約9.6キロスタート
JR紀勢線三瀬谷駅
JR紀勢線瀧原駅

伊勢と熊野を結ぶ古道をたどり大杉そびえる神聖な杜の中へ

三十三カ所巡礼を志した人々が、伊勢神宮参拝のあと、那智の第一番札所・青岸渡寺を目ざして歩いた街道だ。急坂のつづら折りが続く峠の山道には、茶屋跡や宝暦六年の銘のある地蔵などがあり、往時の旅の様子がかがえる。

5 長由介神社 ながゆけしんじや。瀧原宮所管神社。祭神は瀧原宮の御魂の神である長由介神。長生きの神であるとの民間信仰があった。川島神を祭神とする川島神社が同座している。

1

京都三条を出立

伊勢をめざし

屏風でたどる伊勢参り

おかげ参道の

内宮前

頭之宮四方神社

頭之守護神

知恵の大神

0598-72-2316

http://www.koubenomiya.or.jp/

三重県度会郡大紀町大内山

「松坂」よりJR線又は三重交通(南紀特急)

「大内山駅」下車徒歩10分

「紀勢自動車道 紀勢大内山IC」より

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

尾鷲方面へ車で5分

いせびと歳時記

新春から春先にかけての伊勢志摩のまつり・イベント

12月

18日(土)～28日(火)

おかげ横丁 歳の市

●5面参照 園おかげ横丁 一帯伊勢市

園おかげ横丁 総案内

☎0596・23・8838

19日(日)

夫婦岩大注連縄張神事

●4面参照 園一見興玉神社(伊勢市)

園一見興玉神社 ☎0596・43・2020

22日(水) 冬至祭

冬至の前後一カ月は、宇治橋の上
に朝日が昇り、冬至には宇治橋前
で「冬至ぜんざい」のふるまいがある。

園宇治橋前(伊勢市)

園伊勢市観光協会 ☎0596・28・3705



冬至の宇治橋。

31日(金)～1月1日(土)

おかげ横丁行く年来年

園おかげ横丁「太鼓櫓」一帯伊勢市

園おかげ横丁 総案内

☎0596・23・8838

31日(金)～1月1日(土)

名のり・しめ切り・火祭り

●5面参照

園波切全域(志摩市)

園志摩市観光協会

☎0599・46・0570

1月

1日(土) 歳旦祭

新しい年のはじめをお祝いする祭。

園伊勢市伊勢市

園神宮司庁 ☎0596・24・1111

1日(土) ゲーター祭り

八代神社の祭。「アワ」(輪)を竹で
突き上げ、豊漁を祈願する。天下
の奇祭と呼ばれる。

園八代神社(鳥羽市神島町)

園鳥羽市観光課

☎0599・25・1157

伊勢神宮で年越ししよう

過ごせるといわれる。

毎年、多くの年越し参り客でにぎわう伊勢神宮。大晦日の夜19時から内宮・神苑と外宮・参道で元旦の明け方まで大かがり火が焚かれる。23時頃からは伊勢市観光協会によって餅が配られ、かがり火で焼いて食べると1年間無病息災で



内宮・参集殿前には、大晦日の夜から7日まで御神酒授与所が設けられ、初詣客に直会の意味をこめて御神酒が振る舞われる。頂く場合は、盃を手取る前に一拍手するのが正式な作法だ。同じ時期、すぐ近くでは甘酒の振る舞いも。神様にお供えた新米を奈良の酒蔵で醸造した、ご利益ある一杯だ。

1日(土)

船越アタラシキ・トツリアイ(火祭り)

船越地区の「正月迎え」の祭。新年の祝詞を斉唱した後、「トツリアイ」で豊漁を祈る。

園船越神社、船越前浜(志摩市)

園志摩市観光協会

☎0599・46・0570

1日(土)・3日(月) ひつぼろ神事

豊作と大漁を祈る、宇気比神社の獅子舞神事。3日には、激しい火祭神事が行われる。

園宇気比神社(志摩市)

園志摩市観光協会

☎0599・46・0570

1日(土)～3日(月) 獅子舞行事

1・2日は宮獅子一頭が舞い、3日は例大祭で2頭が舞う。五穀豊稔、大漁満足を願う。

園宇賀多神社(志摩市)

園志摩市観光協会

☎0599・46・0570

8日(土) 子授け餅撒き神事

江戸時代から続く例祭。懐妊祈願に遠方からの参拝者もある。

園金刀比羅神社・神楽堂神社(伊勢市)

園社務所 ☎0596・24・8907

初旬

おかげ横丁新春郷土芸能披露
太鼓や獅子舞、伊勢萬歳、伊勢大神楽などが行なわれる。

園おかげ横丁一帯(伊勢市)

園おかげ横丁 総案内

☎0596・23・8838



伊勢萬歳。

10日(月) しめ切り神事

●5面参照

園安永神社(志摩市)

園志摩市観光協会

☎0599・46・0570

11日(火) 一月十一日御饗

●1面参照

園伊勢神宮・内宮(伊勢市)

園神宮司庁 ☎0596・24・1111



答志島の神祭。

13日(土)～15日(月)

神祭(八幡祭)

大漁・海上安全を祈る弓引神事後の「的を奪い合う(14日)」。

園答志島、和具地区、答志地区・八幡神社(鳥羽市答志町)

園鳥羽市観光課

☎0599・25・1157

17日(木)～23日(水) 祈年祭

神饌を奉り五穀の豊かな稔りをお祈りする大御饗の儀と、勅使が参向して奉仕される奉幣の儀の2つのお祭りが行われる。

園伊勢神宮(伊勢市)

園神宮司庁 ☎0596・24・1111

19日(土)～3月3日(木)

おかげ横丁ひなまつり

園おかげ横丁一帯(伊勢市)

園おかげ横丁 総案内

☎0596・23・8838

20日(日) 観音火祭・初観音

火渡り儀式では、無病息災を祈る老若男女がくすぶる火の上を裸足でかけ、御利益を得る。

園太江寺(伊勢市)

園太江寺 ☎0596・43・2283

20日(日) 通能

「伊勢三座」の1つ「勝田座」の流れをくむ通能が奉納される。

園栄通神社、通能公民館(伊勢市)

園伊勢市観光協会 ☎0596・28・3705

20日(日) 御船(おふな)祭り

漁業関係者から信仰の篤い青峯山正福寺の祭。境内に大漁旗が所狭しと飾られ、露店も多い。

園青峯山正福寺(鳥羽市)

園青峯山正福寺 ☎0599・55・0061

24日(木) 汗かき地藏祭

吉事には白い汗、凶事には黒い汗をかくという「汗かき地藏」の祭り。露店もたくさん並ぶ。

園波切堂(志摩市)

園志摩市観光協会

☎0599・46・0570



おひなさまめぐりin二見。

3月

3日(木)～4日(金) 初午大祭

1年の厄災を払おうと観音参りをする老若男女でにぎわう。

園松尾観音寺(伊勢市)

園松尾観音寺 ☎0596・22・2722

13日(日) 一色能

「伊勢三座」の1つ「和谷座」の流れをくむ一色能が奉納される。

園一色町公民館(伊勢市)

園一色町公民館(伊勢市)

☎0596・22・1720

21日(月) 御園祭

野菜・果物などの豊作を祈る。

園神宮御園(伊勢市)

園神宮司庁 ☎0596・24・1111

写真展「日本人のこころ」

第62回式年遷宮を迎える神宮の森の知られざる自然の美しさ・奥深さに迫る写真展。入場無料。

●常設展(平成26年春頃まで)

園9時～17時最終入場は16時30分まで

園五十鈴館(おはらい町通り、赤福本店横)

園松尾赤福 ☎0596・22・2154

心のふるさと伊勢と全国を結ぶ「伊勢講暦2011」発売中!

「伊勢講暦」は、「神宮と神領」の1年が分かるカレンダー。今年は、「お伊勢さんの橋」をテーマに、神宮の宮域内にかかる橋の四季折々の風景を、ゆかりの歌とともに紹介している。1000円。(送料込)

園伊勢文化舎 ☎0596-23-5166



伊勢からの便り

冬至の朝、内宮・宇治橋前の大鳥居から昇る太陽は、今やすっかりお伊勢さんの風物詩となりました。今年も、宇治橋前はこのご来光を拝む沢山の人々でにぎわうことでしょう。もうすぐお正月。初詣に来られた方々が必ず目に留めるのが家々に掛かるしめ縄。四・五面では伊勢の旅に必見のしめ縄の不思議を特集しました。お役に立てば幸いです。

発行人 中村 賢一
(伊勢文化舎代表)

お伊勢さん。のんびり、あちこち、印す旅。

近鉄特急と朱印帳をお得にセット

伊勢の神宮 正宮 別宮 おかげ参り

ご朱印巡りきっぷ

関西発 6,000円 東海発 5,500円 ※ともに大人用のみ発売

(大阪・京都・奈良 府県下から) (愛知・三重県下から)

●発売期間:平成23年3月28日(月)まで

【前売制】乗車開始当日はお求めになれません。

●ご利用期間:購入日の翌日～平成23年3月31日(木)

●有効期間:ご利用期間中で乗車開始日から3日間

前売り
発売のみ購入日の翌日から
ご利用いただけます

きっぷのセット内容

発駅から伊勢志摩までの
往復乗車券・特急券松阪～賢島間の
電車乗り放題
(松阪～賢島間特急券引換券2枚付き)伊勢・二見・鳥羽地区の
バス乗り放題
※高速バスを除く【三重交通・三重急行】
南紀特急バス(松阪駅前～滝原宮前間)
半額割引券(2枚)伊勢の神宮 正宮 別宮
おかげ参り 朱印帳 ご案内文付き

●伊勢名物 赤福引換券 ●おかげ座(おかげ横丁) 入館券
●神宮御園・農業館 入館券 ●「お伊勢さん観光案内」ガイド付き内容参拝参加券(別途500円。
各日先着20名様まで。平成22年12月31日～平成23年1月10日は利用できません。)

オプション

左記価格に 5,300円で 観光タクシー 1台(4名まで)利用可能
(平成22年12月31日～平成23年1月16日は利用できません。)

朱印帳

【ご朱印がいただける正宮・別宮】

こうたいじんぐう ないくう とようけだいじんぐう げくう つきよみのみや
皇大神宮(内宮) 豊受大神宮(外宮) 月夜見宮
やまどひめのみや つきよみのみや いざわのみや たきはらのみや
倭姫宮 月読宮 伊雑宮 滝原宮

ご朱印をいただく際は志をお納めください。
(このきっぷには志納料は含まれておりません。)

お求め 関西発 大阪難波、大阪上本町、大阪阿部野橋、京都、大和西大寺、橿原神宮前、名張の各駅営業所
東海発 近鉄名古屋、近鉄四日市、津、名張の各駅営業所
関西発・東海発とも KNTツーリスト・近畿日本ツーリスト、JTB・日本旅行各グループ、京阪交通社、農協観光の主要支店・営業所、近鉄グループのインターネットショッピングモール[どとこもライブ]http://www.dotcom-life.com/

ご朱印巡りきっぷについての詳しい情報は 近鉄 検索 旅客案内テレフォンセンター(9時～19時)年中無休 大阪 06-6771-3105 / 名古屋 052-561-1604

100

お客様の笑顔をのせて
おかげさまで
近鉄100年

近鉄